

3.1.3 事業推進担当者相互の有機的連携

本 COE を推進するに当たり、精密科学・応用物理学専攻に属する 6 研究領域(機能材料、先端機器システム、量子計測、原子制御プロセス、超精密加工、計算物理)および超精密科学研究センター、生命先端工学専攻の応用表面科学領域では、「一国一城」といわれる研究室の壁を取り除いた。その結果、日本一を自負できるレベルで若手研究者間の自由な交流が可能になった。また、共同で実施する研究プログラムの進展に沿って、より有機的な研究者間の連携を可能とするため、7 名の教員が研究領域間を移動した。

一方、教育研究活動の状況を組織的に把握・改善するため、週 1 回、事業推進担当者全員が参加する全体ミーティングを開催し、各研究プロジェクトおよび教育プログラムの進捗状況の評価を行うとともに、研究者間での情報の共有を徹底した。これにより、各研究領域間や、超精密科学研究センターとの間での有機的な研究連携が促進された。

これらの取り組みの成果は、異なる研究室に属する研究者による共著論文の発表比率が図 3-1 に示すように全体の 61%に達していることから明白である。したがって、総合力が必要な物づくり研究に求められる研究者間の有機的連携は、十分に進んでいると結論できる。

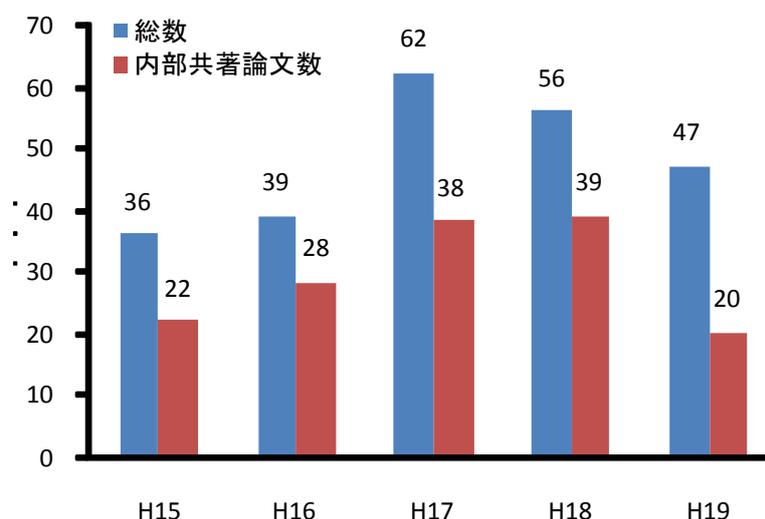


図 3-1 年度毎の論文数の推移